第2章　道　　徳

第１　本指導実践事例集の活用について

１　作成の基本的な考え方

⑴　小学校学習指導要領及び埼玉県小学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえて、同指導資料、同評価資料との関連を図り、道徳の時間の指導を要とした道徳教育の充実に資するよう具体的に実践例を示した。

⑵　児童がねらいとする道徳的価値についての自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていくことができるよう、基本的な指導方法を中心にしながら、多様な指導につながる実践例を示した。

⑶　指導の参考となるよう、指導案とともに指導方法の工夫について、目的・方法・指導記録・効果等着眼点を入れた。

２　取り上げた内容

⑴　道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道徳授業の創造

ア　言葉を生かし考えを深める工夫

道徳の時間では、自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫することが大切である。具体的な事例として、役割演技を生かした話合い、小集団での話合い、書く活動の工夫、話合いを深める発問の工夫等を示した。

イ　体験活動を生かすなどの指導の充実

体験活動では、内容に応じて様々な道徳性が育まれている。道徳の時間では、この体験活動を効果的に生かすことによって道徳的価値の自覚を深める指導が一層充実する。実施に当たっては、児童の発達の段階等を考慮して計画的に行うことが必要である。具体的な例として、導入を工夫した事例、資料の選定を工夫した事例を示した。

ウ　魅力的な教材の開発や活用

児童の実態を踏まえ、児童が感動を覚えるような魅力的な教材を開発し、活用することは、児童の道徳の時間への興味・関心を高めるとともに、児童に充実感をもたらすような生き生きとした指導が期待できる。道徳の資料となる教材の開発に必要な情報収集、道徳的価値の自覚を深めるための教材に具備する要件、活用の工夫等を示した。

⑵　学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育の推進

ア　道徳教育の取組の家庭や地域社会への広報

道徳教育は、学校、家庭、地域社会の三者がそれぞれの役割を果たすことによって、その充実を図ることができる。学校は、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図るために、積極的に情報発信を行う必要がある。ここでは、道徳通信、学校便り、学年・学級便りの活用、公開授業における配布資料の活用の例を示した。

イ　道徳教育に関する学校行事等への家庭や地域社会の参加

道徳の授業を公開することは、学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域社会から得るためにも、極めて大切である。道徳の授業公開を効果的に実施するための工夫、保護者参加型の実践事例、毎月特定の日に「家庭用『彩の国の道徳』」の活用を図る実践等の例を示した。

ウ　道徳教育を柱とした家庭、地域の活動

学校を核とした家庭、地域社会の道徳教育の取組について、挨拶運動、清掃活動、栽培活動、交流活動の実践事　例に加え、市町村で組織した「心の教育推進委員会」により、学校、家庭、地域社会が連携を深めている例を示した。

⑶　小・中学校が連携した道徳教育

ア　児童生徒の実践活動や道徳授業を通した小・中学校の連携

中学校区を基盤とする小・中学校が連携した道徳教育は、９年間を見通し、一貫した道徳教育を推進することが期待できる。ここでは、合同の挨拶運動、その体験を生かした道徳の時間の指導の工夫、小・中学校の教諭による TT の授業例を示した。

イ　教師間の交流による小・中学校の連携

小・中学校の合同研修会、学校公開日を活用した道徳授業の相互参観の例を示し、実践後の感想や成果を加えた。

３　活用に当たっての配慮事項

ここで取り上げた事例の活用に当たっては、各学校、各学級の実態に応じて創意工夫し、各事例相互の内容を関連させ、多様な指導や取組を考えるなどして指導効果を高めることが大切である。また、指導に際しては、児童による学習がより効果的に実施されるように、児童の発達の段階等をとらえ、指導方法を吟味した上で、事例を生かすことが重要である。

第２　実践事例

１　道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道徳授業の創造

⑴　言葉を生かし考えを深める工夫

道徳の時間では、中心的な資料を活用し、児童の体験や資料に対する感じ方や考え方を交えながら話合いを深めることが学習活動の中心となることが多い。その意味からも、道徳の時間における言葉の役割は極めて大きいと言える。話合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア　考えを広め深める役割演技

第１学年○組　道徳学習指導案

１　主題名　みんなが楽しい　かくれんぼ　〔内容項目４－⑴〕
２　資料名　「かくれんぼ」　（出典「彩の国のどうとく」（低学年）『きょうもげんきに』県教委 H22.2）
３　主題設定の理由（略）
４　本時のねらい　集団生活の中でのきまりやルールを守る態度を育てる。
５　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
導入	１　最初の場面絵を見て、話の場面を自由に想像する。	・森の中だ！ ・小川がある。 ・くまさん大きいなぁ。 ・みんなでかくれんぼしている。	・「みんなでかくれんぼ」「約束…小川をこえないこと」「くまさん…体が大きい。いつも最初に見つかる」のキーワードを確認し、条件・情況を押さえる。
展開	２　資料「かくれんぼ」の「くまさん」の気持ちを中心に話し合う。 ⑴ 隠れる場所をさがしながら、くまさんはどのようなことを思ったのでしょうか。	・太い大きな木はないかな。 ・今日こそは最初に見つかりたくない。	・体が大きくてなかなか上手に隠れられずに、いつも最初に見つかってしまうくまさんの気持ちや、見つかってしまったときの気持ちを補助的に発問する。情況を十分に把握させ、見つかりたくない、大きな体を隠したいというくまさんの思いに大いに共感させる。

⑵ 向こう岸の太い木を見つめて、くまさんは、どのようなことを考えたのでしょうか。

考えを広め深める役割演技

役割演技（Ｃ１、Ｃ２、Ｃ３）

Ｃ１：あっ、向こう側にちょうどいい木があるぞ。
　　よし！今日は最初に見つからないぞ。
Ｔ　：今、Ｃ１さんはどんな気持ちかな。
Ｃ２：見つからないぞ、ラッキー。
Ｃ３：今日は上手に隠れることができた。
Ｔ　：Ｃ１さんはどう？
Ｃ１：うれしい。最初に見つからないから。
Ｔ　：どうして川を越えたの？
Ｃ１：だって、見つかりたくないんだもん。

役割演技（Ｃ４、Ｃ５、Ｃ６）

Ｃ４：どうしよう。向こう側に行きたいけど、小川をこえないことがみんなの約束だから。
Ｔ　：今、Ｃ４さんはどんな気持ちかな。
Ｃ５：見つかっちゃうかもしれない。やだな。
Ｃ６：でも、流されたら危ないよ。
Ｔ　：Ｃ４さんはどう？
Ｃ４：向こう側に行きたいけど…約束があるから。
Ｔ　：どうして川を越えないの？
Ｃ４：だって、約束を守らないと楽しくないよ。

目的

児童の思いをありのままに表現できる役割演技を生かして多様な価値観を引き出し、考えを広めたり深めたりする。

方法

児童がくまさんになり役割演技をする。

演技を観ている児童にも意見を聞いたり参加させたりして、多様な考えを出させる。

役割演技での児童の発言をもとに、きまりやルールを守る大切さについて話し合う。

役割演技を生かした話合い

Ｔ：今、川を渡るくまさんと渡らないくまさんがいたけど、みんなはどちらのくまさんの気持ちが強いかな。その理由を話し合ってみよう。
Ｃ：見つかりたくないから渡る。
Ｃ：私も鬼になるとつまらないから渡る。
Ｔ：なるほど、渡らないくまさんの気持ちは？
Ｃ：約束を守らないとだめだよ。
Ｃ：みんなが心配しちゃうよ。
Ｔ：それを聞いて渡るくまさんの気持ちはどうかな？
Ｃ：体が大きいからかくれる場所がないんだよ。
Ｃ：川を越えちゃいけないなんておかしいよ。
Ｃ：でも、みんなに心配かけちゃうよね。

効果

○即興的に演じることで、児童のありのままの気持ちが表現されやすく、多様な考えを引き出すことができる。
○演技を観ている児童は、友達の考えと比べることができるので、自己を客観的に見つめることができる。
○その後の話合いでは、多様な価値観を基に、ねらいに対する考えを深めることができる。

イ　小集団の話合いを全体の話合いに生かした工夫

第４学年○組　道徳学習指導案

１　主題名　よりよい学級をつくるために　〔内容項目４－(4)〕
２　資料名　「ハッピースマイル」　（出典「彩の国のどうとく」（中学年）『みんななかよし』県教委 H22. 2）
３　主題設定の理由（略）
４　本時のねらい　先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくろうとする態度を育てる。
５　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
導入	１　学級のよいところについて発表する。	・みんな仲よしなところ。 ・元気いっぱいなところ。 ・勉強をがんばっているところ。	・事前の意識調査から特に注目する回答を紹介しその意味を考えながら、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。
展開	２　資料を読んで話し合う。 (1) 配膳台を気にしながらも遊びに行ってしまったはるかはどんな気持ちだったのでしょうか。 (2) どうしていいか分からずにうつかは、どんな	・だれか片付けるるだろう。 ・早く遊びに行きたいからやらないでいいかな。 ・クラスのために自分が片付けないといけない。	・だれかが片付けるだろうと人任せの気持ちであるはるかに共感させる。 ・どうしていいか分からず悩んでいる主人公の葛藤を深く考えさせるため、小集団で話合いを行
終末	５　教師の説		いる学級のよさを語るとともに、 よい学級になるための道筋となる先 紹介する。

小集団での話合い

目的

全員が自分の考えを発表し、相手の考えをしっかり聞くことを通して自分の考えを深める。

小集団の話合いで出された考えをもとに全体で話し合うことでさらに考えを深める。

方法

小集団（２人～４人）での話合い
↓
小集団での話合いを全体の前で再現する。
↓
全体での話合い

児童の反応

Ｔ　：うつむいてしまったはるかさんは、どんなことを考えていたのでしょうか。

【小集団での話合い】

Ａグループ

Ｃ１：私は片付けない。自分の仕事ではないから、片付ける必要ないよ。
Ｃ２：私は片付ける。誰かが片付けないといけないと思うから。
Ｃ１：どうして？
Ｃ２：だって、先生に誰か片付けてくれませんかって言われたし…。
Ｃ１：それなら、出した人が片付ければいいのではないかな。

Ｂグループ

Ｃ３：ぼくは片付けられないな。今、立ち上がったら自分が悪いみたい。
Ｃ４：そうそう、私も。誰かが片付け始めたら手伝おうかな。
Ｃ５：どうして？
Ｃ４：だって、片付けたほうがいいと思うけど、先生に怒られそうだし。いまさらできないよ。
Ｃ５：それは分かる。でも、私はしのぶさんのことも考えて片付けるよ。
Ｃ３：でも、ぼくが悪いみたいに先生に言われるのはいやだな。片付けないといけないのは分かるけど、できないよ。

【Ａ・Ｂグループの話合いを再現してから、全体での話合い】

Ｔ　：今のグループの話を聞いて、どう考えますか。
Ｃ６：Ｃ４さんの考えを聞いて、確かに今立ち上がるのは勇気がいると感じました。片付けた方がいいのは分かるけど、私が悪いみたいになったら困ります。
Ｔ　：片付けようとする気持ちはあるのかな。
Ｃ６：はい。このままではいけない。それは分かっているけれど、今片付けると自分のせいでこうなったと思われそうで心配です。

効果

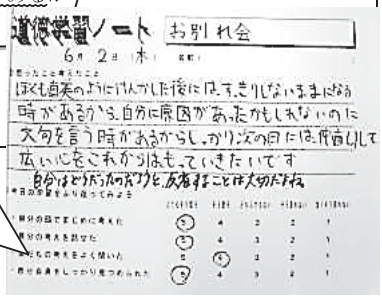
○小集団であるため、全員が自分の考えを発表できる。

○考えを聞いたり意見を伝えたりしやすいので話合いが活発になる。
○小集団を生かし、全体で話し合うことで多様な考えに気付き、考えをさらに広げ深めることができる。
○話合いの再現を見ることにより、児童が話合いの深め方を理解し、話合いを充実させることができる。

ウ　場面絵を活用した導入と自己を深く見つめさせる書く活動の工夫

第６学年○組　道徳学習指導案

１　主題名　　広い心で　　〔内容項目２－(4)〕
２　資料名　「お別れ会」　（出典　６年　副読本）
３　主題設定の理由（略）
４　本時のねらい　　謙虚な心をもち、広い心で相手を大切にしようとする心情を育てる。
５　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
導入	１　場面絵から想像し、自由に発言する。 **場面絵の活用（導入の工夫）** *目的* 体験を想起させながら、資料の世界に入り込ませる。 *方法* 場面絵を提示し、児童は、そこから得られた情報をもとに自由に想像し、発言する。児童の発言を受けながら資料の条件・情況を押さえていく。	・困っているみたい。 ・約束がありそう。 ・悩んでいるよう。 まず場面絵のみを提示し、その後、登場人物名や条件・情況を示す短冊を提示していく。 *児童の反応* Ｔ：どんな様子ですか。 Ｃ：何か悩んでいるみたい。 Ｔ：何を悩んでいるのかな。 Ｃ：みんなにおいていかれちゃってどうしよう。 Ｃ：友達と遊びに行くことにしたけれど、どうやって行こうか悩んでいる。 Ｔ：そう、この４人は仲よし４人組で、直美さんと・・・。そのうちの小原さんが転校することになり、お別れ会をすることになったのです。それで何で悩むのかな。 Ｃ：お別れ会と別な用事ができたんだ。	・場面絵を黒板に貼り注目させる。 ・自由な雰囲気で語らせながら登場人物や条件を押さえていく。 ・自分が主人公であればどうするかを考えさせる。 ・「きっと楽しいだろうな」と思いながらもドライブを断った私の情況を押さえる。 *効果* ○場面絵の情報のみでなく、自己の体験も想起しながら自分との関わりで考えることができる。 ○絵をもとに言葉を用いた思考、表現ができる。 ○これからどうなるのだろうかと、資料の世界に入り込みやすくなる。 ○場面絵を注視することで集中力が増す。
展開	２　資料「お別れ会」の範読を聞き話し合う。 (1) 小原さんからの電話を切った私はどんな気持ちでいるのでしょうか。	・なんで急に延期するのよ。 ・ドライブに行けばよかった。 ・ふざけないでよ。 ・もっと早く言いなさいよ。	・主人公の気持ちになって考えながら聞くよう指示する。 ・思わずかっとなっていく主人公の気持ちに十分共感させ、児童の言葉を用いて板書する。 ☆苛立ちを覚える主人公の気持ちに共感しているか。
展開	３　今までの自分を見つめる。 **道徳学習ノートの活用（書く活動の工夫）** *目的* 書くことによって、ねらいに関わるこれまでの自己の生き方を深く見つめさせる。 *方法* これまでの自分を振り返り、道徳学習ノートの「思ったこと・考えたこと」欄に記述させる。	・自分の気持ちを優先させることが多かったな。 *児童の反応（記述例）* Ｔ：みんなも相手の失敗を許せなかった、相手の立場を考えられなかった経験を振り返ってみよう。 Ｃ：わたしは、バスケットボールの練習で休んだ人にイラっときたことがありました。何回も休むのでずるいという気持ちがありました。 でも、その後考えてみると、その人の家の事情があるのだなと思い、強く相手にぶつけたりはしませんでした。これからもよく考えていきたいです。 Ｃ：ぼくもけんかした後には、すっきりしないままになるときがある。自分に原因があったかもしれないのに、文句を言うときがあるから、もっと広い心をもてたらいいな。 ここでは、自分をしっかり見つめることが大切である。 道徳学習ノートの下段では、道徳の授業についての自分の振り返り（自己評価）をする。 ・自分の頭でまじめに考えた ・自分の考えを話せた ・友だちの考えをよく聞いた ・自分自身をしっかり見つめられた これらは言語活動についての振り返りにもなる。  道徳学習ノート　お別れ会 6月 2日（木） 思ったこと考えたこと ぼくも直美のようにけんかした後にはすっきりしないままになる時があるから、自分に原因があったかもしれないのに文句を言う時があるからしっかり次の日には仲直りして広い心をこれからはもっていきたいです 自分はどうだったかの気持ちを、友達のことは大切だね 今日の学習をふり返ってみよう ・自分の頭でまじめに考えた　◎ 4 3 2 1 ・自分の考えを話せた　◎ 4 3 2 1 ・友だちの考えをよく聞いた　5 ◎ 3 2 1 ・自分自身をしっかり見つめられた　◎ 4 3 2 1	・具体的な場面を想起させる。 ・ねらいとする価値に関わって自己の生き方を考えさせるため、書く活動を取り入れる。 ☆自己を見つめ、自己の生き方を考えているか。 *効果* ○考えながら書き、書きながら考えることで、これまでの自分を見つめ自己の生き方を考えやすい。 ○自己の成長を確認できる記録として蓄積できる。
終末	４「心のノート」にある詩を聞く。		

エ　話合いを深める工夫

第５学年○組　道徳学習指導案

１　主題名　　みんなが気持ちよく　　〔内容項目４－(1)〕
２　資料名　「イニシャルの落書き」　（出典「彩の国の道徳」（高学年）『夢にむかって』県教委 H22. 2）
３　主題設定の理由（略）
４　本時のねらい　　公徳心をもって、進んで公共の秩序維持に努めようとする態度を育てる。
５　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
導入	１　ストリートアートの写真を見る。	・うまいなぁ。 ・おもしろい。 ・どうやって描いたのかな。	・児童が興味や関心をもちそうなストリートアートを数枚提示する。 ・ねらいとする価値への方向付けを行う。
展開	２　資料「イニシャルの落書き」の範読を聞き、話し合う。 (1) 家に帰ってすぐに自分のマークを描き始めたのはどうしてですか。	・シャッターのマークを見て自分も真似して描いてみたくなったから。	・主人公になったつもりで考えながら聞くよう指示する。 ・英語のマークに興味をもった主人公の気持ちに十分共感させ、児童の言葉を用いてまとめ、板書する。 ☆シャッターのマークに惹かれる主人公に共感しているか。
	(2) 完成したイニシャル	・いいサインができたぞ。 ・どこかに描き残したいな。 ・描きたいけど描いちゃだめかな。	・ぼく（慎吾）の心の中にあるものが、自己の欲求を満たそうとする方向か、公徳やきまりを尊ぶ方向か、児童の価値観の一端を探っていく。
	(3) シャッターに描た落書きをお店のちが消しているのて、何を思ったでう。 ３　これまでの自分つめる。		
終末	４　教師の話を聞く。		・ねらいとする価値を印象的にとらえさせる。

立場を明確にした話合い

目的
多様な考え方や感じ方の話合いを通し、価値に対する自覚を深める。

方法
「描く」「描かない」の行為を支える動機について、異なる立場や同じ立場で交流する。また、迷っている立場も認めながら、それぞれの立場の動機を明確にする。

児童の反応
T：完成したイニシャルのサインを見てどんなことを考えているでしょう。
C：ぼくも机に描こうかな。
C：描きたいけれど、描いちゃだめだよな。
C：どうしようかな。
T：どうやら描きたいって気持ちと描いちゃだめかなって気持ちとがあるみたいですね。「描こう」「描かない」どちらの気持ちが強いですか。
T：では「描く」って気持ちが強い人たち、それはどうしてですか。
C：やっとサインができたから記念に残したい。
C：みんなも描いているから。
C：別に誰かに迷惑をかけるわけじゃないから。
T：なるほどね。（板書）今度は、「描かない」って人たち、それはどうしてですか。
C：自分のものじゃないから。
C：人に迷惑をかけるから。
T：なるほど。（板書）他の理由の人はいますか。
C：見つかったら怒られるから。
C：落書きはいけないことだから。
T：どうしていけないのですか。
C：人のものに描いちゃ迷惑になる。自分の机に描いてあったら嫌だもの。
T：では、誰かが使っている机ではなくて、学校のどこか目立たない所にだったらどうですか。
C：あ、それならいいかな。
C：いや、それでもだめ。
T：どうしてですか。
C：だって、自分のじゃないんだから勝手に描いちゃだめだと思います。
T：と言っていますが、どうですか？
C：えー、でもこれぐらい大丈夫だよ。
T：なるほど。○○さん、どうですか。
C：ちょっとでもやっぱりだめだよ。
（略）
T：お話の中の慎吾も、どちらの気持ちもあってこんなふうにいろいろと考えたのでしょうね。そして、次の日の朝、シャッターに描かれた落書きをお店の人たちが消している姿を見て、どう思ったでしょう。

迷いは認めながら、わずかでも気持ちが強い方の動機を探る。

ここが重要！

立場を明確にした話合いで大切なことは、多様な価値観を知り、自分の価値観との違いを明確にしていくことである。

話合いでは、一つの考えにまとめようとするのではなく、理解できるところやできないところを確かめる。主人公の多様な考えを踏まえ、第３発問へつなげる。

効果
○立場を明確にすることで、意思表示がしやすくなる。
○初めの立場は二つだが、動機の交流を通して多様な考え方に接することができ、自己理解を深めることになる。
○資料の中の出来事を他人事ではなく、自分の事としてとらえて考え、話し合うことができる。

動機について、児童の微妙な考えの違いをとらえ、教師による意図的指名を行いやすくするために、色を変えて帽子を被らせることも一つの手段である。

「コの字」の座席も、相手の顔が見え、話し合いやすくなる。

道徳

⑵　体験活動を生かすなどの指導の充実

児童一人一人が道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深めていくためには、自分の今までの体験活動を想起しながら話合いを行うと効果的である。表のような学習過程の中で体験活動などを生かすことができる。

導入	○ねらいに関わるような共通の体験を想起させ、問題意識を高めるようにする。
展開	○児童が日常の体験を想起しやすい資料を活用したり、資料の主人公の行為を支えている動機を考える時にこれまでの体験に照らして考えられるような発問を工夫したりする。 ○日常生活でのねらいに関わる体験や、これまでの道徳の時間に自らが考えたことなどを想起させ、自己を見つめられるようにする。
終末	○児童の心に響かせ、今後の活動に意欲がもてるような活動にする。

ただし、全ての学習過程においてこのような手立てを取り入れるということではなく、児童の実態やその時間のねらい等に合わせて吟味し、適切に取り入れる必要がある。

なお、ねらいとする道徳的価値を児童の実態に即して理解するためには、日頃からの実態把握が不可欠である。道徳の時間における児童の発言が、それまでの体験に基づいていることを受け止め、さらにその発言から児童理解を深めていくことが大切である。

ア　導入を工夫した事例

第１学年○組　道徳学習指導案

１　主題名　　がんばって　できたよ　　〔内容項目１－⑵〕

２　資料名　　「りょうくんと一りん車」　（出典　１年　副読本）

３　主題設定の理由

⑴　ねらいとする道徳的価値について　（略）

⑵　児童の実態　（略）

⑶　資料について

本資料は、一輪車に乗れない主人公りょうくんが一人で練習を始めるが、けがや苦痛でやめようとしたとき、友達の励ましで練習をがんばることができ、乗れるようになるという内容である。

まず、練習を始めたもののうまくいかず、足にあざができたり倒れて血が出たりして涙が出てきた場面では、こわい思いや「もうやめたい。」と思う主人公の心に共感させる。次に、仲よしのまきちゃんとさとしくんに、「りょうくん、がんばれ。もうすこし。」と励まされ、また練習を始める場面では、一人ではくじけそうになっていたが、友達の励ましが原動力になって、もう一度がんばろうとしている主人公の気持ちをつかませるようにする。そして、練習を続けてやっと乗れるようになった場面では、つらいことに耐えて成し遂げたときの喜びを感じ取らせ、最後まで粘り強く努力することの大切さをとらえさせたい。

４　本時のねらい　　自分でやろうと決めたことは、最後まで粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。

５　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
導入	１　持久走大会までの経験について振り返る。	・苦しかったけど、がんばったよ。 ・最後までがんばってよかった。	・体験を想起させ、ねらいとする価値に関連して問題意識をもたせる。
展開	共通体験の想起（導入の工夫） ２　資料の範読を聞き、話し合		・登場人物の条件・情況を押さえる。 「り う 難 ど

目的

共通の体験を想起させることで、学習への意欲と問題意識を高める。

方法

大型テレビなどＩＣＴを活用して、写真を提示する。

児童の反応例

Ｔ：写真を見ながら、持久走大会までのことを思い出してみましょう。

Ｃ：練習が苦しかったけど頑張った。

Ｃ：家でみんなが応援してくれたから最後まで頑張れた。

Ｃ：手をぬかずに頑張ってよかった。

効果

○共通の体験を基にして、相互理解を図ることができる。

○体験に基づいて問題意識をもたせることができる。

―　以下　略　―

イ　資料の選定を工夫した事例

第６学年○組　道徳学習指導案

１　主題名　　規律ある生活　　〔内容項目１－⑶〕

２　資料名　　「修学旅行の夜」　　（出典　６年　副読本）

３　主題設定の理由

⑴　ねらいとする道徳的価値について　（略）

⑵　児童の実態　（略）

⑶　資料について

本資料は、修学旅行の夜に「できるだけ静かに寝よう。」という班の約束が守れずに、班長である主人公「わたし」まで加わってまくら合戦になってしまい、先生から「自由と自分勝手のちがいを考えなさい。」と叱られてしまうという内容である。

まず、消灯後もおしゃべりをする場面では、自分の体験とも結び付けながら、楽しみたいという気持ちを律することができなかった心の内に共感させる。次に、おしゃべりの仲間に入っていく場面では、もっと自由がほしいという思いと、できるだけ静かにしようという思いで揺れる主人公の複雑な気持ちに自分を重ね合わせて考えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。そして、隣の部屋の人に苦情を言われたり、先生に注意されたりする場面では、自分たちの楽しみが他人には迷惑になっていることに気付かせ、自由が自分勝手な行動とは違うことをとらえさせたい。

４　本時のねらい　　自由の大切さを理解し、よく考えて規律ある行動をとろうとする態度を育てる。

５　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
導入	１　今までにもっと自由がほしいと思った経験について話し合う。	・社会科見学でもっと自由に行動したかった。 ・休み時間もっと自由に遊びたい。	・日常の体験を基に、自由について話し合い、ねらいとする価値に関連して問題意識をもたせる。
展開	２　資料の範読を聞き、話し合		・登場人物の条件・情況を押さえる。 ・主人公「わたし」の気持ちを中心に
終末			

体験を想起しやすい資料の活用（資料選定の工夫）

目的

集団宿泊活動などの体験を想起しやすい資料を活用することで、学習への意欲や問題意識を高める。

方法

体験活動などを振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができる資料を活用する。

児童の反応例

（展開で）

Ｃ：修学旅行でもっと友達としゃべりたいと考えるのは、自然だと思う。

Ｃ：先生に叱られるのが嫌だから静かにしようと考えたんだと思うよ。

効果

○登場人物に自分を重ねて考えることができる。

○自らの体験から、問題意識を高めることができる。

６　他の教育

（４月　学 「よりよい生活を目指そう」 ・既習事項を生かすとともにさらに身に付けたいことを考える。	資料名「わたしの心に着せる服」 （「彩の国の道徳」） 自由について理解し、自身を律して、よりよく生きようとする判断力を育てる。	（１１月　学級活動） 「学校のきまりを見直そう」 ・きまりを見直し、やってはいけないことを回りにも注意できるようにする。
（５月　学校行事） 「修学旅行」 ・集団宿泊活動を通じて、基本的な生活習慣や社会生活上のきまりを身に付ける。	（１０月） 資料名「修学旅行の夜」（副読本） 自由の大切さを理解し、よく考えて規律ある行動をとろうとする態度を育てる。	（１月　社会科） 「願いを実現する政治」 ・政治の仕組みを理解し、互いの思いを尊重し合える社会を目指す態度を養う。

↓　↑

家庭との連携
身近な生活の中で、自らを律して行動することの大切さを話してもらう。

道徳

⑶　魅力的な教材の開発や活用

道徳の時間に活用する教材は、児童が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味をもっている。また、児童が人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学び合う共通の素材として重要な役割をもっている。したがって、道徳の時間の目標を実現するためにも児童が感動を覚えるような魅力的な教材を多様に開発し、その効果的な活用に努めることが大切である。以下に教材開発の手順、留意事項等について述べる。

ア　情報収集

教材を開発するに当たっては、日常から報道、書籍、身近な出来事等について強い関心をもつとともに、柔軟な発想をもち、教材を広く求める姿勢をもつことが大切である。

○先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした教材
○自然を題材としたもの
○名作、古典、随想、詩歌などの読み物
○地域の文化や出来事等を取材した郷土資料
○映像メディアやインターネットなどの情報通信ネットワークを利用した教材
○実話、写真、劇、漫画、紙芝居などの多様な形式の教材等

児童作文の活用も考えられる。

例　東日本大震災

「希望と勇気をもって生きようとする姿」に感動

題材の決定
○教師自身が感動を覚えてこそ、よい教材

これからの社会を支えていく子どもたちに、この震災から学んだことを考えさせたい。

教師が感動を覚えたのは、「道徳の内容」のどの部分にかかわるか、ねらいは何にするのか等の確認

関わりのあるのは、内容の１－（２）だろうか？　３－（１）だろうか？

被災地の様子はどうなのだろう？

取材
○なるべく多方面から取材する。
・登場人物の抱える背景、条件・情況　等

希望をもって努力する人々の生き方、考え方

児童が深く考えることのできる資料にしたい。

資料作成

・取材したどの部分を活用すれば、ねらいに迫れるだろうか。

イ　教材作成

道徳の時間に用いられる教材の具備すべき要件として、以下の点を満たすことが大切であり、教材を作成する際には十分留意する必要がある。

ア　人間尊重の精神にかなうもの
イ　ねらいを実現するのにふさわしいもの
ウ　児童の興味や関心、発達の段階に応じたもの
エ　多様な価値観が引き出され、深く考えることができるもの
オ　特定の価値観に偏らない中立的なもの

児童が学習に意欲的に取り組み、学習への充実感をもち、道徳的価値の自覚を深めることができるようにするためには、上記の要件に加え、さらに次のような要件が必要となる。

ア　児童の感性に訴え、感動を覚えるようなもの
イ　人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの
ウ　生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えさせるもの
エ　生活体験や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの
オ　悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの
カ　多様で発展的な学習活動を可能にするもの

・どのような言葉や構成にすれば児童に感動が伝わるか。
・児童にとって難しい言葉はないか。
・児童の発達の段階に即しているか。（内容項目との照合）
・著作権の確認（実在する人物を扱う場合は本人の承諾）

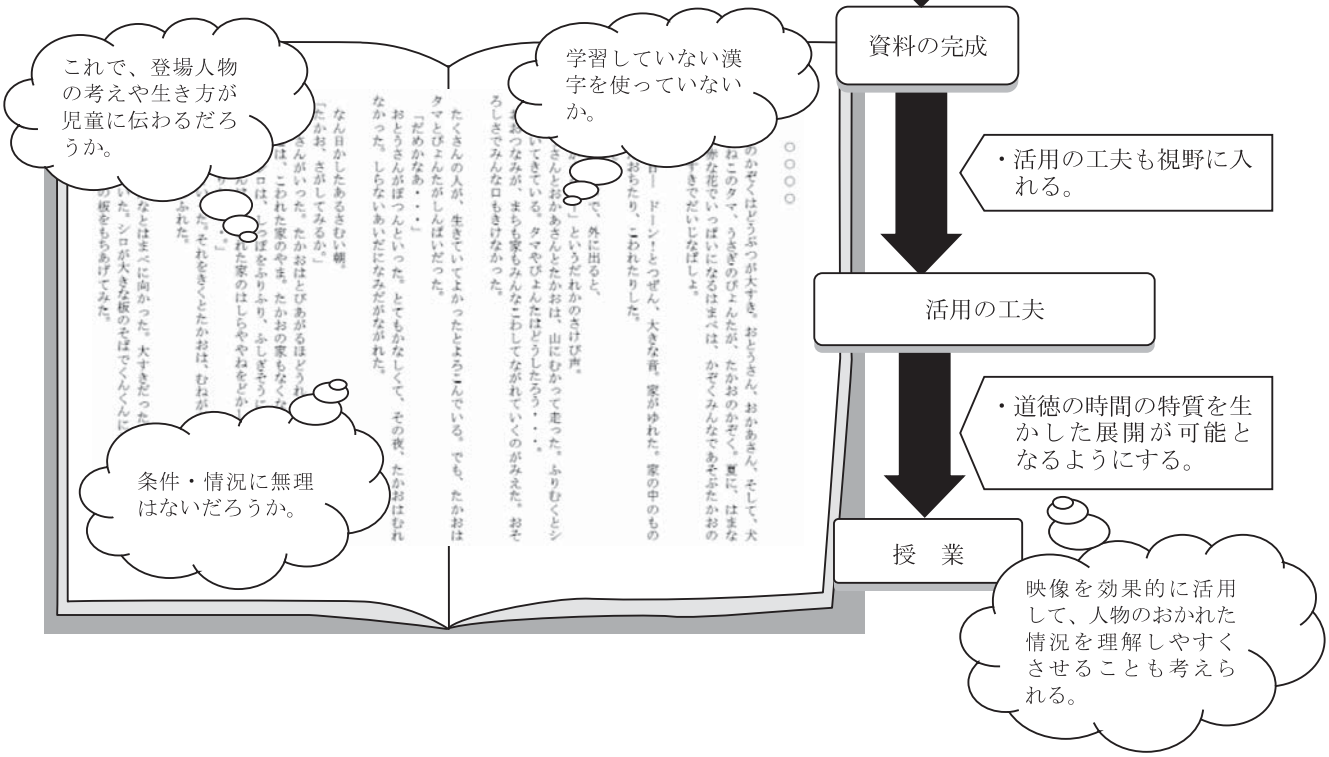
資料の完成

・活用の工夫も視野に入れる。

活用の工夫

・道徳の時間の特質を生かした展開が可能となるようにする。

授　業



ウ　活用の創意工夫

教材の開発に当たっては、道徳の時間の特質を生かした展開が可能となるよう、活用を視野に入れた工夫が求められる。

【例】○地域の人を招く。
○情報機器を活用する。
○疑似体験活動を取り込む。
○補助的な教材を組み合わせる。　等

＋

○内容や形式等の特徴を押さえて、授業に位置付ける。
○児童がどのように内容を受け止めるか予想するなどして、掲示の工夫、発問の仕方の工夫等を検討する。

このような教材が多様に開発されることを通して、その生かし方もより創意あるものになり、児童自身の主体的な活用が促される。

２　学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育の推進

道徳教育は、学校、家庭、地域社会の三者がそれぞれの役割を果たすことによって、より一層充実を図ることができる。学校は、家庭や地域社会が道徳教育において果たす役割を認識した上で、家庭や地域社会との交流を密にして協力体制を整えるとともに、具体的な連携の在り方について多様な方法を工夫していく必要がある。

⑴　道徳教育の取組の家庭や地域社会への広報

学校では道徳教育についてどのように考えているのか、何を重点としているのか、どのように取り組んでいるのかなどの情報提供を積極的に行い、共通理解を深め、協力を求めることが大切である。各学校において、道徳通信や学校便り、学年・学級便りを発行することにより、保護者や地域の方々に日常的に道徳教育についての理解や関心を高めていただき、家庭、地域社会と連携した道徳教育を推進することが大切である。

取り上げる内容例

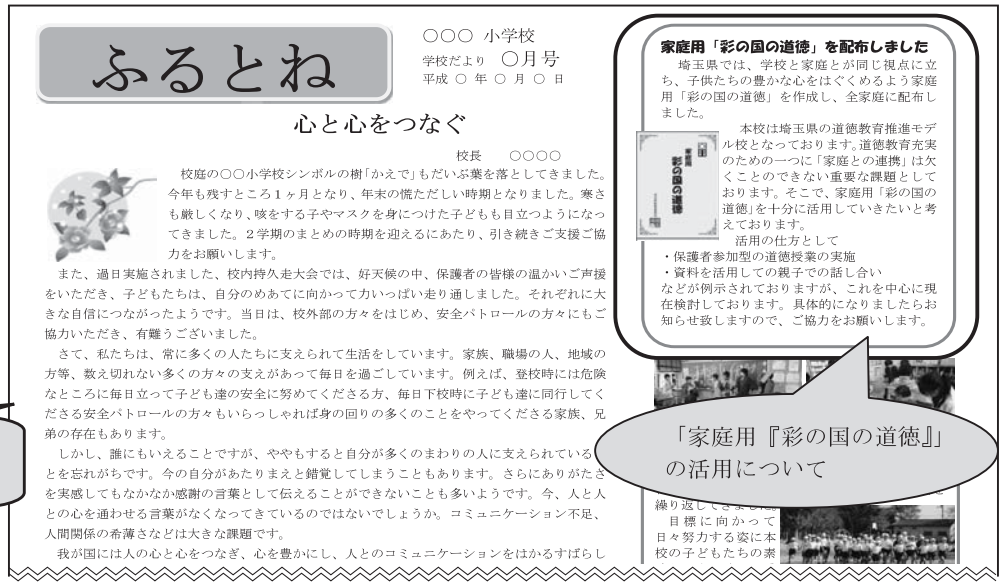
○学校の道徳教育の方針や計画
○児童の活動の様子（体験活動や道徳の授業等）
○「家庭用『彩の国の道徳』」等の活用方法
○家庭や地域の方から寄せられた感想やエピソード
○アンケート結果等

ア　道徳通信

無理なく計画的に発行できるよう、行事等を見通して、道徳教育推進教師や道徳主任、各学年担当等で分担して作成する。

イ　学校便り

学校便りは、どの学校でも定期的に発行され、その学校の特色や経営方針、校長の思い等を広く知らせるものである。道徳教育を意識した取組を掲載することで、家庭や地域社会に道徳教育の推進を呼びかけることができる。



ウ　学年・学級便り

児童の日頃の活動や教師の思いをより詳しく伝えられるのは、学年・学級便りである。道徳通信と同様に、学年・学級の道徳教育の方針、目指す児童像や道徳的価値、日頃の出来事や道徳の授業の様子等を伝えることで、保護者の道徳教育への理解を深め、家庭と連携を図った道徳教育を推進することができる。

＜学年便りの一部＞　　道徳の授業の紹介▼　　アンケート結果を伝える▼

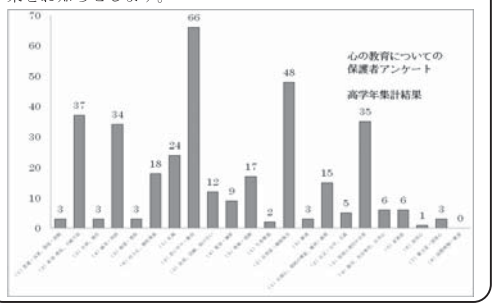
道徳の授業

「くまくんのたからもの」　　**思いやり・親切**

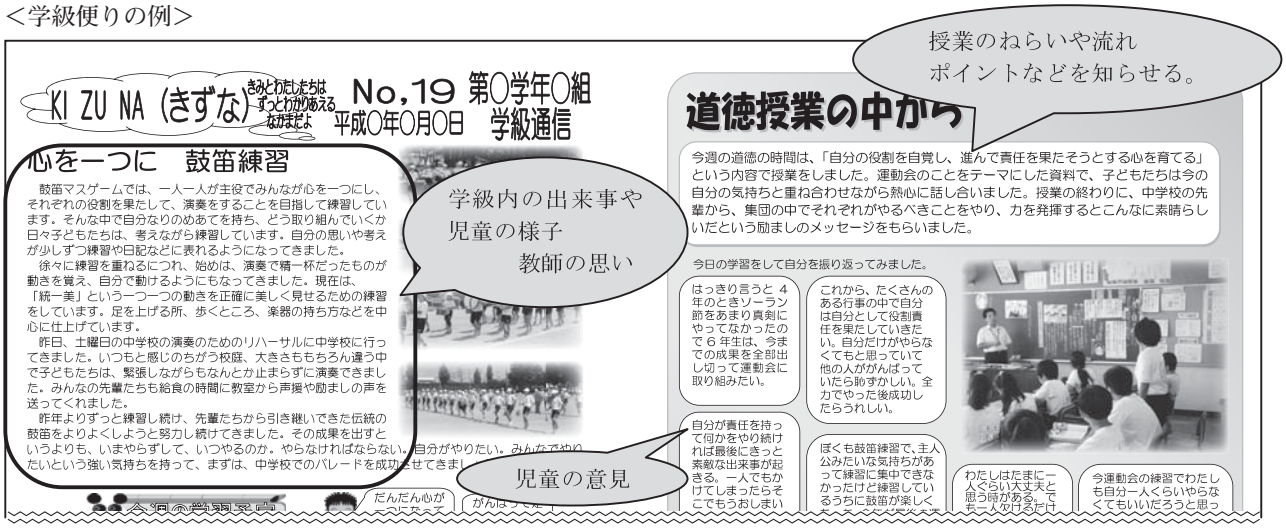
主人公のくまくんが、ママに作ってもらった新しいかばんをもって宝物探しに出かけます。穴に落ちた小さなねずみの子を助けるため、せっかくかばんに集めた大切な宝物を捨てるというお話です。「ねずみの子を助けたい」「でも宝物は捨てたくない」という思いに共感しながら、ねずみの子のことを思いやり、自分の大切な物を捨てられるくまくんのやさしさに気付くことができました。授業の最後に担任から渡された「どんぐりカード」には一人一人の思いやりのある行動が書かれており、どの子も嬉しそうに読んでいました。

児童の感想：相手をほっておかないで、助けてあげたい。思いやりって伝わるんだ。

先日ご協力いただいた「心の教育についてのアンケート」の結果をお知らせします。



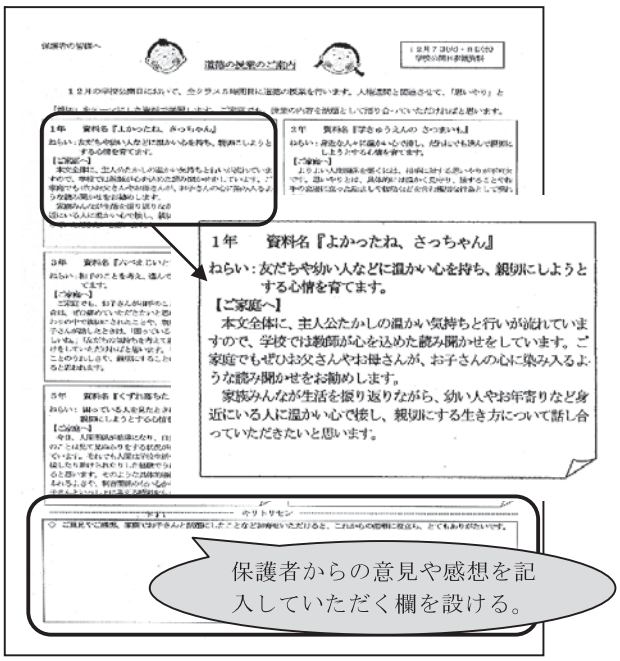
＜学級便りの例＞



エ　公開授業のお知らせ

道徳教育の要である道徳の時間の授業を公開することは、学校における道徳教育への理解と協力を得るためにも大切である。授業の具体的な内容（ねらい、授業の流れ・ポイント、保護者の方へのメッセージ等）を伝えることで、保護者の道徳の時間についての理解を深めることができる。また、事前にアンケートや児童への手紙等の協力を得たり、事後の指導に関する依頼をしたりすることにより、連携を深めた道徳教育を進めていくことができる。

＜公開授業の配布資料＞



(2) 道徳教育に関する学校行事等への家庭や地域社会の参加

ア　道徳の時間の授業公開を効果的に実施するための工夫

シラバスの配布

・授業公開当日、教室入口に置く。

・授業前に本時の授業について知らせることで、授業を参観する視点の一つとする。

平成○○年○月○日（○）　○時間目

今日のヒーロー

ねらい　個性伸長

人にはそれぞれ長所や短所があることに気づき、積極的に自分のよさをのばしていこうとする気持ちを育てます。

あらすじ

まゆみは帰りの会の「今日のヒーロー」で洋子のことを発表した。洋子は昨日の昼休みと今日、図書室で一年生に本を読んでいた。そのわけを尋ねると、洋子は本を読むことや小さい子のお世話が好きなこと、今度母親と一緒に福祉施設で読み聞かせをすることを目を輝かせながら話した。その発表を聞いた先生は、洋子のように自分のよい所を伸ばそうということ、人はだれでも必ずいいところがあること話した。家に帰り自分のよい所を考えたまゆみだが、思いつかず悩んでしまう。その様子を見たまゆみの母が心配そうに声をかけた。まゆみは学校であったことなどを母に話した。すると、母はまゆみのいいところを話し、まだまだあるから自分でも探すよう勧めた。自分のいい所に気がついたまゆみはその後一人で考え、夕食時に、他にも見つけたこと喜んで母に話した。「今日のわが家のヒーローはまゆみね。」と母が話すと、まゆみは明日が待ち遠しくなってきた。

（3年1組の子どもの現状）

多くの子が友達のよい所を見つけ、それを認めることができる。しかし、自分のこととなると、悪い所や気になる所は思いつくが、よい所はなかなか思いつかない子が多い。

また、自分のよい所についてじっくり振り返る経験が少ない。

資料を通しての学び合い

これからの自分

自分のよい所や気になる所に気付いた上で、よい所をさらに伸ばしていき、自分の個性を伸ばすことができる。

【授業のポイント】

・　学びを深めるために以下の３つの点について話し合います。

・　主人公わたし（まゆみ）に共感して、自分のよい所をのばすことについて考えます。

まゆみは、どんなことを考えながら洋子の話を聞いていたでしょうか。

自分のよい所がなかなか見つからないとき、まゆみはどんな気持ちになったでしょうか。

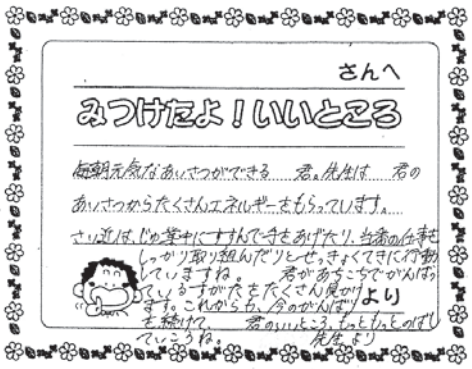
お母さんから自分のいい所を話してもらったまゆみはどんなことを考えたでしょうか。

【保護者の皆様へ】

お子さんのよい所はどんなところですか。ぜひお子さんに伝えてください。そして、お子さんが家庭や地域の中でよい所を伸ばし生かせるよう積極的にご支援よろしくお願いします。

【本日の授業公開の感想をお寄せください】

授業にて



「よいところカード」

・終末で教師から「よいところカード」を手渡す。

・児童にとって、「自分のよさ」を考える契機となる。

・保護者や児童相互による記入も効果的である。

児童の反応

C1：うれしかった。先生は私をこんなふうに見ていてくれたなんて。

C2：これまで、自分では全然気が付かなかった。

C3：「みんなに優しい」と書いてあったけど、私はただクラスの友だちだからそうしてきただけなのに、なんだかうれしい。

保護者や児童の感想を掲載した学級便り

授業参観後の懇談会での活用

・本時のねらいを懇談会の話題として話し合うことで、学校と家庭が一体となって、道徳教育を推進することができる。

Ｔ　：今日は私が考えるお子様の「よいところ」をカードに記入しましたが、保護者の皆様はお子様のよいところをどのようにお考えですか。

【グループ懇談後に全体で懇談】

Ｐ１：わが子ですから、どうしてもマイナス面に目が行きます。「よいところはどこ？」と考えてしまい、最近ほめていないなと反省しました。

Ｐ２：私もＰ１さんのように、よいところと聞かれてもすぐに出ませんでした。だけど、グループ懇談の中で他のお母さんの話を伺って、考えることができました。家に帰って子どもに伝えたいです。

Ｐ３：私がすぐに思い付いたことはすべて目に見えることばかりでした。でも、それは子どもときちんと向き合っていないのではと感じました。内面のよさを見付けてほめてあげたいと思いました。

Cha-Cha-Cha

○○小学校
3年1組
学級通信
H○○.○.○

「ダイヤモンド」を輝かせるため

先日は授業参観・保護者会にご参会いただきましてありがとうございました。また、授業参観・保護者会の内容につきまして多くのお返事をいただき感謝申し上げます。

家に帰ったら、お母さんがいろいろ話してくれました。わたしが習い事に行っている間にわたしのいいところを考えていてくれて、とってもうれしくてなみだがでてしまいました。

今日、先生が見つけてくれたぼくのいいところの手紙がとてもうれしかったです。自分では全然気がつかなかったです。ありがとうございました。つくえの上にかざって大切にします。

夕ごはんのときに、お母さんがわたしのいいところを３つ言ってくれました。
1　相手を思いやる心がある。
2　がまん強い。
3　忘れものしないよう心がけている。

お母さんに言われたいいところ
・　元気にあいさつができる。
・　みんなにやさしいところ
・　どんな場面でもしっかり意見が言えること。

お母さんにわたしのいい
さん言ってもらいました
つもこう思っているのか
しくなりました。でも、
かしかったです。

今日の先生のお話を伺
近ほめてないな～」と反
が子ですからどうしても課題が目につい
てしまいますが、長い目で見守っていけたらと思いました。（保護者様より）

ありました。ほめてあげるのは難しいことですが、少しずつでもほめてあげたいと思いました。（保護者様より）

保護者や児童から寄せられた感想を掲載することで、保護者の意識を高めることができる。

一人一人の「自分のダイヤモンドをみがこう」を教室に掲示しました。子どもたちの「ダイヤモンド」を輝かせるために学校と家庭が協力して支援していけたらと考えております。ご協力よろしくお願いします。

また、お子様のよい所についてなどエピソードがございましたら、ぜひ教えてください。お待ちしております。

イ　保護者参加型の道徳授業

第２学年○組　道徳学習指導案

1　主題名　生まれてきてよかったな　〔内容項目３－(1)〕
2　資料名　「大切なたからもの」　（出典「彩の国のどうとく」（低学年）『きょうもげんきに』県教委 H22.2）
3　主題設定の理由（略）
4　本時のねらい　生きることを喜び、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。
5　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点　☆評価の観点
展開	2　資料「大切なたからもの」の「春人」の気持ちを中心に話し合う。 (1) スキップしながら弟に会いに行った春人は、おそるおそるだっこをして、どんなことを思ったでしょう。 (2) お父さんとお母さんが嬉	・小さくてかわいいな。 ・会いたかったよ、ぼくがお兄ちゃんだよ。 ・これからいっぱい遊ぼうね。 ・弟ができて本当によかった！うれしい！	・赤ちゃん人形をだっこしながら、主人公になりきって気持ちを言葉にさせる。弟が生まれた喜びに共感させ、小さな命の尊さを考えさせる。
終末	4　保護者の話を聞き、手紙を読む。		

授業のねらいや流れ等について、手紙や保護者会等で事前に伝えておくことで、道徳の授業において共感的に理解していただくとともに、主体的に参加できるようにする。

道徳の授業の御案内とお願い

○月○日のオープン参観の際、道徳の授業を行います。
資料名「大切なたからもの」（「家庭用『彩の国の道徳』」）
ねらい：生きることを喜び、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。
＜授業の流れ＞
① 赤ちゃんの頃に興味をもつ。
② 資料「大切なたからもの」を読み、主人公「春人」の気持ちを話し合う。
③ 自分自身の命についてふり返る。
④ 保護者の実際のエピソードを聞き、一人一人が手紙を読む。

ご協力いただきたいこと
○事前に「家庭用『彩の国の道徳』」を読んでいただき、お子さんへの手紙を書いて下さい。
（当日、封筒に入れ一人一人に手渡します。）
○当日、何人かの保護者の方に、ゲストティーチャーとして授業の終わりにお子さんの生まれたときの話やこれまで育ててきた思いなどを語っていただきたいです。　※ご協力いただける方は御連絡をお願いします。
☆当日の子どもたちの驚きや感動を大切にしたいので、手紙の回収や授業への参加はできればお子さんに内緒で行っていただけるとありがたいです。

子どもの心に響く保護者の参加

目的
親の思いや願いを知り、これからの自他の命について考える。

方法
保護者に、事前に本時のねらい等を連絡し、児童に手紙を書いていただく。
ゲストティーチャーとして、代表の保護者に、わが子を大切に思う話をしていただく。その後、児童一人一人に手紙を手渡し、読ませる。

保護者のお話
○○が生まれて、この手で抱いたとき、お母さんは涙が出るくらいうれしかったわ。無事に生まれてきてくれてありがとう。これまで○○のことを大切に大切に育ててきました。だから、いつまでも自分や周りの人の命を大切に、一生懸命いろいろなことに挑戦してね。○○がいてくれるだけで、お父さんもお母さんも幸せです。

児童の反応
C：こんなふうに思ってくれてうれしい。
C：大切に育ててくれたんだなぁ。
C：生まれてきてよかったな。
C：これからもいろいろなことを一生懸命がんばろう。

効果
○保護者の思いを知らせることで、自分が大切な存在であることに気付かせ、実感させることができる。
○家庭でも道徳の授業について話し合うことができる。

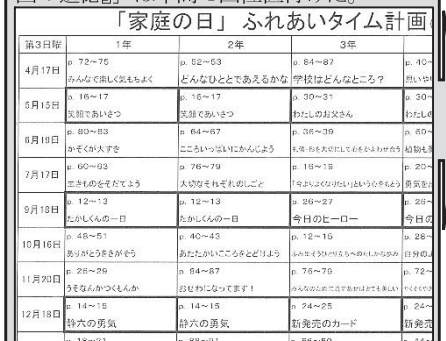
ウ　「家庭用『彩の国の道徳』」の活用

①特定の日における活用例

毎月第３日曜日の「家庭の日」に「ふれあいタイム」を設定し、「心のノート」や「家庭用『彩の国の道徳』」を活用した話合いを家庭で行っている。その実践経過を以下に示す。

① 計画の作成

年度始めに「ふれあいタイム」の年間計画を作成して教職員に配布。「家庭用『彩の国の道徳』」は年間４回位置付けた。

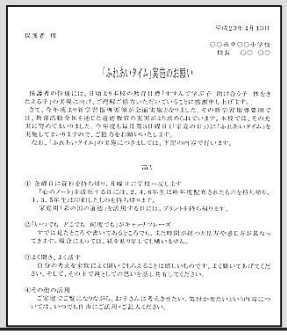


「家庭の日」 ふれあいタイム計画

第3日曜	1年	2年	3年	
4月17日	p. 72～75 みんなで楽しく気もちよく	p. 52～53 どんなひととであえるかな	p. 84～87 学校はどんなところ？	p. 40～ 思いや
5月15日	p. 16～17 笑顔であいさつ	p. 16～17 笑顔であいさつ	p. 30～31 わたしのお父さん	p. 30～ わたしの
6月19日	p. 80～83 かぞくがいすぎ	p. 64～67 こころいっぱいにかんじよう	礼儀・作法を大切にしてみをとよりかかる	p. 60～ 植物も
7月17日	p. 60～63 三さいのときだて	p. 76～79 大切なそれぞれのしごと	p. 18～19 「今よりよくなりたい」というきもち	p. 20～ 勇気を
9月18日	p. 12～13 たかしくんの一日	p. 12～13 たかしくんの一日	p. 26～27 今日のヒーロー	p. 28～ 今日の
10月16日	p. 48～51 ありがとうをきかそう	p. 40～43 あたたかいこころをとどけよう	p. 12～15 ふれあいタイムからのわたしからはの	p. 28～ 自分の
11月20日	p. 28～29 うそなんかつくもんか	p. 84～87 おせわになってます！	p. 76～79 みんなのために出来ることは？	p. 72～ やくそく
12月18日	p. 14～15 鈴六の勇気	p. 14～15 鈴六の勇気	p. 24～25 新発売のカード	p. 24～ 新発売
1月15日	p. 18～21	p. 88～91	p. 56～59	p. 44～

② 保護者への協力依頼

「ふれあいタイム」に関する取組の内容を載せた依頼文を保護者向けに作成し、４月に配布。家庭用「彩の国の道徳」についても記載。



保護者　様

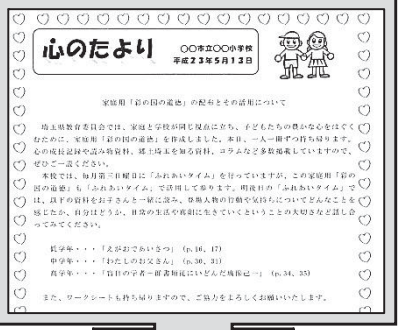
平成23年4月13日

○○市立○○小学校
校長　○○ ○○

「ふれあいタイム」実施のお願い

③ 「家庭用『彩の国の道徳』」の説明と活用案内

保護者向けの道徳便りに「家庭用『彩の国の道徳』」の紹介と「ふれあいタイム」での活用を改めて掲載し、配布する。



心のたより　○○市立○○小学校　平成２３年５月１３日

家庭用「彩の国の道徳」の配布とその活用について

埼玉県教育委員会では、家庭と学校が同じ視点に立ち、子どもたちの豊かな心をはぐくむために、家庭用「彩の国の道徳」を作成しました。本日、一人一冊ずつ配ります。心の成長記録や読み物資料、郷土埼玉を知る資料、コラムなど多数掲載していますので、ぜひご一読ください。

本校では、毎月第三日曜日に「ふれあいタイム」を行っていますが、この家庭用「彩の国の道徳」も「ふれあいタイム」で活用して参ります。明後日の「ふれあいタイム」では、以下の資料をお子さんと一緒に読み、日頃人数の行動や気持ちについてどんなことを感じたか、自分はどうか、日常の生活や将来にたくさいてくということの大切さなど話し合ってみてください。

低学年・・・「えがおであいさつ」（p.16、17）
中学年・・・「わたしのお父さん」（p.30、31）
高学年・・・「自分の学者一覧表掲載にいどんだ城郭記一」（p.34、35）

また、ワークシートも持ち帰りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

④ 「ふれあいタイム」での活用

低・中・高学年ごとにワークシートを作成し、金曜日に配布する。

【低学年用】

ふれあいタイム（9月18日）

名前（　　）

家庭用「彩の国の道徳」p．12～13の「たかしくんの一日」を読んで、生活のリズムの大切さについて、お家の人と話し合ってみましょう。そして、生活で気をつけたいことを書いて一週間やってみましょう。

気もちのよい生かつをかんがえよう！

月　火　水　木　金　土

めあて　あそぶ前にしゅくだいをしてしまう。つぎの日のじゅんびをする。

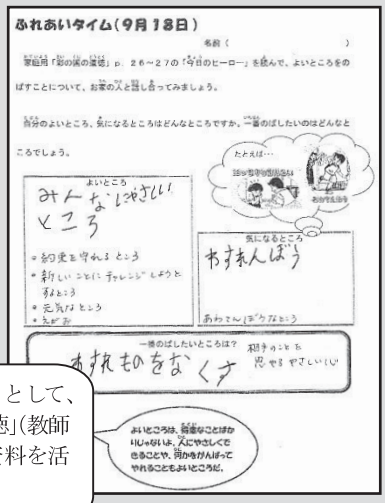
せいかつで、きをつけたいことをかこう

◇めあてがまもれたら、なまえへいろをぬりましょう

ハートマン

雑談話しあい生活は、気持ちのよい生活につながる！

【中学年用】



ふれあいタイム（9月18日）

名前（　　）

家庭用「彩の国の道徳」p．26～27の「今日のヒーロー」を読んで、よいところをのばすことについて、お家の人と話し合ってみましょう。

自分のよいところ、気になるところはどんなところですか。一番のばしたいのはどんなところでしょう。

よいところ　みんなにしゅうかいしたいところ
・約束を守れるところ
・新しいことにチャレンジしようとするところ
・元気なところ
・もどる

たとえば…

気になるところ　やすれんぼう

あわてんぼうなところ

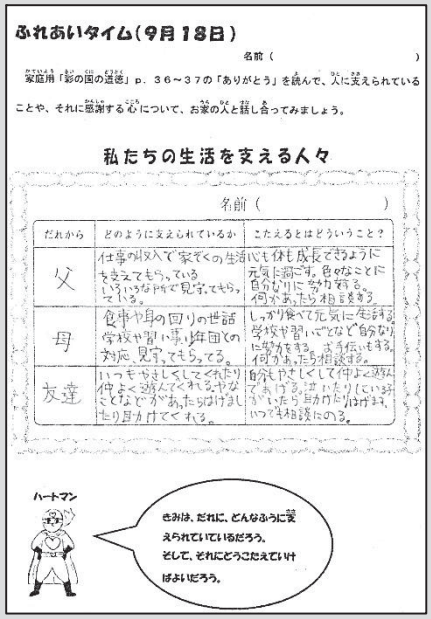
一週のばしたいところは？　やすれものをなくす

相手のことを思やりやさしくしよう

よいところは、弱者なことばかりじゃなくて、人にやさしくできることや、困ったときにがんばってやれることもよいところだ。

ワークシートとして、「彩の国の道徳」(教師用）の掲載資料を活用した。

【高学年用】



ふれあいタイム（9月18日）

名前（　　）

家庭用「彩の国の道徳」p．36～37の「ありがとう」を読んで、人に支えられていることや、それに感謝する心について、お家の人と話し合ってみましょう。

私たちの生活を支える人々

名前（　　）

だれから	どのように支えられているか	こたえるとはどういうこと？
父	仕事に専念して家そくの生活にも体も成長できるように支えてもらっている。いろいろな所で見守ってもらっている。	元気に過ごす。色のなことに自分なりに努力する。何かあったら相談する。
母	食事や身の回りの世話学校や習い事、近所での対応、見守ってもらってる。	しっかり食べて元気に生活する。学校や習い事などで自分なりに努力をする。お手伝いをする。何かあったら相談する。
友達	いつも優しくしてくれたり仲よく遊んでくれるやくそくなどがあったりはげましたり見かけてくれる。	自分もやさしくして仲よく遊んであげる。困ったりこまっている友だちがいたら見かけたりはげましたり、いつでも相談にのる。

ハートマン

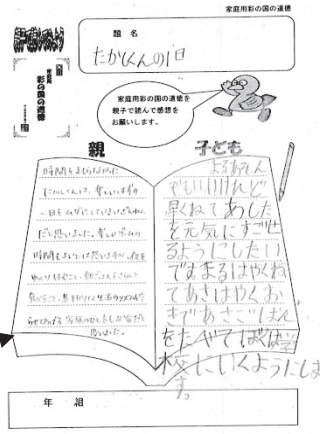
きみは、だれに、どんなふうに支えられていているだろう。そして、それにどうこたえていけばよいだろう。

②保護者会での活用例

保護者会は、直接保護者と顔を合わせて話し合うことができる貴重な場である。その機会を利用して、学校の道徳教育への理解を呼びかけたり、保護者同士の情報交換の場を設けたりする。

「家庭用『彩の国の道徳』」を活用した懇談会

○校長挨拶のＶＴＲの中で、「彩の国の道徳」の活用方法や具体的な資料を取り上げて話す。
○「彩の国の道徳」を持参してもらい、資料を読んで話し合い、保護者同士の意見も交流する。
○各家庭での親子読書と話合いを勧める。



家庭用彩の国の道徳

題名　たかしくんの1日

家庭用彩の国の道徳を親子で読んで感想をお願いします。

親　子ども

よるねんでいいけれど見ねてあしたを元気にすごせるようにしたいではまるはやくねてあさはやくおきであさごはんをたべてはがきをかくようにします。

年　組

(3) 道徳教育を柱とした家庭、地域の活動

道徳教育の充実は学校、家庭、地域社会の三者が一体となって「共に児童を育てる」という共通認識のもと、それぞれが道徳教育に取り組んでいくことが不可欠である。そのためには、道徳の教育方針、児童の実態把握等について、家庭や地域社会と情報の共有化を図り、三者が一体となった取組を充実させていくことが重要である。

ア　学校を核とした、家庭や地域社会の取組例

○　挨拶運動

各学期の初めに５日間の日程で実施。学校を中心に児童、職員、保護者をはじめ、各自治会等へも協力を依頼し、地域ぐるみで挨拶運動を行う。

また、家庭と連携しながら「いただきます、ごちそうさま、ありがとう」などの挨拶の徹底にも取り組む。

挨拶運動の様子

○　清掃活動等への取組

親子による「全校クリーン作戦」や自治会連合会主催で年３回行っている市内一斉清掃活動への積極的参加、通学路や学校周辺の清掃、ごみ拾い、落ち葉掃きなど、発達の段階に応じた取組を実施する。また、学校応援団等を活用して、ごみの分別とリサイクル品を使ったおもちゃづくりなどを行う。

親子での除草作業

○　栽培活動を通した取組

児童が自然と触れ合い、植物を育てる楽しさや難しさ、開花したときの喜びなどを体験することを通して、豊かな心を醸成するために花の種子や苗を購入し、校内や通学路などで植栽活動を行う。その際、地域の人材を活用しながら一人一鉢の栽培活動にも取り組む。

また、学校に設置したリサイクル機により、給食等の残菜や調理くずから肥料を作って栽培に活用したり、育てた花を市内の施設などへ寄贈したりする活動も行う。

○　地域内での交流活動

近隣にある学校や園が連携し、それぞれの教育活動を通した交流を推進する。また、教育活動の周知や計画の見直しにより、学校行事等に多くの地域の方に参加してもらったり、学校から地域の活動へ参加したりする。

具体的には、幼保小、小中、小高、小特支間の交流や、農家など地域社会に住む様々な職業の方との交流、地域や施設主催の行事への参加などを行う。

地域内での交流（小高間交流）

イ　市町村全体での取組例

○　心の教育推進活動

市（町村）の教育委員会が中心となり、心の教育推進委員会を組織し、21世紀を担う青少年の心の健全な育成を目指して全市（町村）で取り組んでいく。活動は学校別活動を中心に、全地区一斉の活動や地区単位の活動を取り入れ、地域社会との連携を強化しながら継続的に行っていく。

推進委員会では、学校、団体ごとの取組の他に学期ごとに年間３回の全体協議会を実施し、それぞれの取組や課題の報告、様々な交流活動へ向けた話合い、児童生徒を取り巻く教育課題についての協議などを行う。

推進委員は、市内小・中学校、県立高等学校、県立特別支援学校、保育所、幼稚園の管理職と担当職員、小・中学校保護者コーディネーター、学識経験者、社会福祉協議会、青少年育成推進委員会、コミュニティー協議会、自治連合会、民生委員児童委員協議会、市役所関連課など、様々な立場から日々児童生徒の健全育成のために尽力している人に委嘱する。

地域連携の要となる推進委員会を中心にして、学校、家庭、地域社会が強い絆で結び付き、三者が一体となった教育を推進していくことができる。

○○市心の教育推進委員会設置要綱

（設置）

第１条　地域ぐるみで心の教育を推進するため、家庭・地域社会・学校、さらには関係機関の連携を図り、子どもたちの豊かな道徳性を培う取り組みを推進するための企画及び実践を行い、その成果について普及・啓発を行うとともに、本市の心の教育に対する方針等を検討するため、「○○市心の教育推進委員会」(以下「推進委員会」)を設置する。

（所掌事務）

第２条　推進委員会は次に掲げる事項を行う。

(1)○○市における家庭・地域社会・学校、更には関係機関との連携を図り、豊かな道徳性を培う取り組みについての企画及び実践を行い、その成果についての普及・啓発に努めること。

(2)本市の心の教育推進のための諸方策について検討すること。

（組織）

第３条　推進委員会は、本市の教育機関並びに関係機関団体の代表によって構成する。推進委員会は別表に掲げる委員をもって構成する。

２　推進委員会には、委員の互選による委員長及び副委員長をおく。

３　推進委員会の円滑な推進を図るため、次の２つの小委員会を置き、必要に応じて委員長が招集するものとする。

(1)運営委員会は、正副委員長、各ブロック代表者によって構成し、当要綱第２条に関わる骨子の企画立案を行うとともに、関係事項の協議検討等を行う。

３　小・中学校が連携した道徳教育

道徳教育は、地域社会が基盤となって、生涯にわたって児童の生き方を支え続けるものである。中学校区を基盤とし、小・中学校で連携し、交流の機会を充実することは重要である。地域の生活文化や伝統、行事等は共通していることが多く、地域社会が一体となって児童の心を育む活動を進めることによって、９年間の見通しをもった道徳教育を推進することができる。小・中学校の連携として、学校間での指導の一貫性を保ち、児童生徒に直接関わる各種行事等での体験活動・実践活動、教師間の交流により同一歩調の指導を行う基盤づくりとしての合同研修会や授業見学会の取組がある。地域の特色や実態を生かした先進的な実践事例を参考に、小・中学校の連携に取り組んでいくことが重要である。

⑴　児童生徒の実践活動や道徳授業を通した小・中学校の連携

ア　小中学校合同による挨拶運動

Ａ小学校、Ａ中学校は、思いやりの心の育成という方針のもと、①今取り組んでいる活動を、小学校、中学校が合同でできないか、②負担無く新しい活動ができないかの二つの視点から、児童生徒の交流活動を検討した。その中から、Ａ中学校の生徒会担当とＡ小学校の児童会担当で企画したのが「挨拶運動」である。毎月、生徒会で行っていた挨拶運動を小学校、中学校交代で出向いて行うこととした。徒歩、８分程度でやや離れている学校同士ではあるが、従来から職員の勤務時間を調整しながら自校の校門で行っていた活動を、交互に訪れる形に変更して実施した。中学校へ訪れた小学生は、１回目は緊張した様子であり、また、挨拶を返す中学生にも照れが見られた。小学校を訪問した中学生は、卒業生らしく堂々とした態度で接する中で、元気よく挨拶を行っていた。回を重ねるうちに、双方の児童生徒とも自然に挨拶を交わせるようになった。

挨拶運動実施までの手順

１　連携推進委員会設置
各校：校長、教頭、主幹教諭、生徒指導・特活・道徳各主任

２　連携方針の策定
～思いやりの心の育成～
①今ある活動で
②負担のない新しい活動で

３　実践内容（特活部会の提案）
①第１週の月～金８：00～８：20
②交代で、児童会・生徒会役員が双方の学校で挨拶運動
③担当教諭、役員児童生徒

・小学校の前で挨拶するときは、懐かしさと、小学校時代の子が大きくなっても「あ、○○ちゃん」と言ってくれたので、うれしかった。小学生の方が元気に挨拶をしてくれるので、「私たちがもっとがんばらないと」と思いました。（中学校生徒会役員）

・中学校は、怖い感じがしたけど、先生や生徒会のお姉さんと一緒に挨拶運動をしてみたら、挨拶してくれたのでよかったです。今度、私が中学校に行ったら小学生に元気よく挨拶してあげたいです。（小学校児童会役員）

○小学生の方がしっかりしていて、登校してくる生徒があまり挨拶を返さないので、普段の指導をしっかりしないといけないと反省しました。回数を重ねていくうちに、生徒も挨拶を返したり、自分から小学生に挨拶をしたりして、ほのぼのとした雰囲気になってきて、よい取組だと思いました。実際に挨拶運動を体験することも大事だと改めて感じました。（中学校生徒会担当教諭）

○中学生のお兄さん、お姉さんが立つと、元気よくというか、調子に乗ってしまう子もいましたが、２か月に一回やっていくうちに慣れ、今では自然な形になってきました。無理のない範囲で児童会以外の児童に体験させていきたいと思いました。（小学校児童会担当教諭）

挨拶運動のような実践活動では、両校が「礼儀」「思いやり」「尊敬」といった道徳教育のねらいをもち、一貫して取り組むことが大切である。直接中心となって活動する児童生徒だけでなく、挨拶をされた児童生徒の体験も大切である。また、挨拶を返す児童生徒が挨拶する側に変化していくところを見逃さずに評価することも忘れてはならない。その場で担当の教師が「元気な挨拶だったね。」「自分からすてきな笑顔でできたね。」等、児童生徒に声をかけたり、担任に伝えたりしていくことが重要である。

さらに、この実践活動の体験を道徳の時間に生かすこともできる。道徳の時間では、内容項目２－⑴や２－⑸等のねらいを明確にした上で指導計画を立案する。また、指導過程のどこでどのように体験を想起させるかを考慮する必要がある。

道徳の時間での活用例〔ねらい　２－⑴の場合〕

１　導入で活用
○挨拶運動の写真を提示
Ｃ：挨拶運動だ。
Ｃ：中学生が来てくれるよ。
Ｔ：みんなが言ってくれたようにこれは挨拶運動の時の写真です。どんな気持ちで挨拶をしているのかな？（間）
今日は、真心を込めるということについてみんなで考えていきましょう。

２　展開前段での活用
○主人公が、恥ずかしくて挨拶ができない場面
Ｔ：心の中でどんなことを考えていますか。
Ｃ：恥ずかしい。
Ｃ：どうしようかな。
Ｔ：何で？
Ｃ：だって、ぼくも挨拶運動の中学生に恥ずかしくて返せないから。知らない人だし。
Ｔ：なるほどね。今、○○さんが言ってくれたように、みんなも挨拶運動のときのことを思い出してみて。この時の主人公、どんなこと考えているかな。
Ｃ：しないと先生に注意されるからな。
Ｃ：みんながやっているからしようかな。
Ｃ：勇気が無くて、声がでないな。（略）

３　展開後段での活用
Ｔ：みんなは、どんな場面で挨拶をしていますか。その時、どんな気持ちでしていましたか。（間）例えば、朝の挨拶運動ではどうですか？（略）

イ　小学校教諭による入学した中学校でのTTによる道徳授業

道徳の時間の授業改善と「中１ギャップ」等への対応を図るため、B小中連携委員会が計画した。B小学校の道徳教育推進教師が、卒業生が進学するB中学校へ行き、TTによる道徳授業を行った。前年度第６学年を担任していた小学校の教諭がT１、中学校の教諭がT２として、協力しながら授業を展開した。生徒の反応をとらえ、適宜隣同士の話合いを取り入れ、知っている生徒を意図的に指名して役割演技を行うなどして、終始和やかな雰囲気の中でねらいに迫る授業を展開することができた。

道徳の時間の様子　〔内容項目　４－(5)〕
資料名『次は清掃登山に挑戦だ』
（出典「彩の国の道徳」（中学校）『自分を見つめて』）
■中心場面
T：隊長に「いいアイディアだ。健はどう考える？」と言われた野口さんは、心の中でどんなことを考えていた？
S：みんな本当ですか。ゆっくり休みましょうよ。
S：でも、みんながやるからな。
T：今の考えを聞いてみると「できればしたくない」と「清掃する」という二つの考えに分かれたね。みんなの野口さんは、どっちの考えが強いですか？「したくない」人（人数板書）。「する」人（板書）。
では、「したくない」人から、理由を言ってくれますか？
S：だって、ただでさえ体調が悪いし、世界一のエベレストに挑戦するんだから、失敗はできない。できれば休みたい。
S：私も、清掃は大切なことだと思うけど、今は夢を叶えるためにも休みたい。
T：なるほどね。（板書）では、「する人」はどうですか。
S：しないとチームの雰囲気が悪くなるから。
S：みんながやっているからしようかな。
S：みんなの山をきれいにしたいから。（略）

○また、○○先生の道徳の授業が受けられて楽しかった。道徳の時間は、みんなと話し合いながら、自分の考えがはっきりしてくるので、中学校でもがんばりたいです。（B小を卒業した生徒）
○初めてB小学校の先生の道徳の授業を受けました。はじめは、ちょっとやり方が違うので戸惑いました。でも、隣の人と、主人公の野口さんになりきって、思い付いたことを話してすっきりしました。道徳って、面白いなと思いました。（B小卒業でない生徒）
○小学校での道徳授業が、自然な形で新鮮でした。中学生とは言え、ほんの１か月前は小学校であのような道徳の時間を受けていたんだと思うと、中学校でも引き続き道徳の時間の充実に努めていくことの大切さがよくわかりました。力まずに、小学校の先生から学んだことを生かしていきたいです。（B中学校教諭）

道徳教育推進教師が、前年度第６学年の担任であったという利点を生かした小・中学校連携による道徳の授業である。近隣小学校卒業生への配慮をしつつ、その場での人間関係をつくり、道徳の時間の授業の楽しさを伝えていくというB小学校と、B中学校としても道徳の時間の授業を改善したいという双方の熱意と協力があって成立した。また、中学校教諭が小学校でTTによる道徳の時間の授業を実践することも考えられる。

(2)　教師間の交流による小・中学校の連携

ア　小・中連携合同研修会

C小・中学校では、夏季休業中に「小中９年間を見通した道徳教育の推進～話合いを中心とした道徳授業づくり～」などをテーマとして指導者を招聘して「小・中連携合同研修会」を実施した。

例えば、指導者による模擬授業は、小・中学校の教師にとって児童生徒の立場で授業を受ける体験ができる。また、授業展開の仕方について体験を通して学び、道徳の時間のイメージづくりを行うことができる。このように、授業をつくるためのねらいのとらえ方や資料分析の仕方等の講義をもとに、実際に小グループで模擬授業づくりの演習を行うことにより、小・中双方の教師同士の話合いや学び合いが生まれる。中でも、中心場面を明確にする場面では、一人一人の教師によって中心場面が異なる状況から、理由を話し合い、整理していく中で、徐々に中心場面を決めていくことができた。さらに、その中心場面での児童生徒の多様な反応を動機によって分けることにより、話合いを深めることができた。

C小・中学校連携合同研修会プログラム
「小中９年間を見通した道徳教育の推進
～話合いを中心とした道徳授業づくり～」
■平成23年８月○日（○）８：45～12：00
１講義　(20分)　道徳の時間とは
２模擬授業　(50分)　資料名「私たちの初詣」
並びに質疑　(５分)
３講義　(20分)　資料分析の方法
４演習　(50分)　資料分析・発問構成　※３人一組
５模擬授業演習　(40分)　代表２グループ

○小学校の先生方と、資料の中心場面を話し合うと、私は、後半部分の覚醒した部分を大事にしたいと思っていることに気付きました。どうしても、教えたくなってしまうのだなと思いました。中心場面を葛藤部分ととらえ、多様な価値観を引き出す面白さがわかりました。（C中学校教諭）
○中学校の先生方と、講義にあったとおりに主人公の葛藤場面を見付けていこうとすると、人によって場所が全く違って楽しかったです。理由を聞くと、そうか、そういうとらえ方もあるなと勉強になりました。（C小学校教諭）
○中学校の先生方と３人一組で、中心場面を考え合い、それを新しいメンバーに説明していく中で、自分の視点がかなり曖昧であることに気付かされました。中学校の先生方と話し合えたことがとてもよかったです。（C小学校教諭）

小・中連携の中で、夏季休業中に研修会を行うことによって互いが顔見知りになり、双方のよさを理解し合うことができる。さらに、具体的な授業づくりを小グループで行うことにより、児童生徒にとってどのような授業にしていけばよいのかを真剣に話し合うことができる。こうした取組が、授業に対する見方や考え方を広げ、９年間にわたる道徳の時間のねらいの系統性をつかむことができるとともに、多様な授業展開など道徳の時間の目標等を再度確認するよい機会となる。

イ　道徳授業公開見学会

学校公開日に「道徳の時間」を一斉公開する学校が増えてきている。保護者や地域の方に道徳の授業を見てもらうことは、道徳教育について理解を得る一つの効果的な方法となる。D小・中学校では、この機会を利用して、学校公開日に職員が双方の道徳の授業を参観するようにしている。

その際、道徳の時間をバランスよく公開し、職員が道徳の授業を参観しやすいようにしている。授業参観後は、感想録を提出し、さらに合同研修会では道徳の授業について協議するようにしている。道徳の時間という共通の土台について、小・中学校で意見を出し合い、よりよい授業づくりを両校で進めている。

○６年生の道徳を参観したのですが、子どもたちが、主人公になりきって、理由を話し合っている姿に感動しました。中学校でこそやりたい授業、やるべき授業です。（D中学校教諭）

○小学校の１年生から６年生までの授業を見て、どの学年の児童も、楽しそうに発表していました。この学びを中学校に生かしていかなければと感じました。（D中学校教諭）

○中学校の道徳授業を初めて見ましたが、少人数の話合いをしっかりしていて、大人らしい発言に思わずよく考えているなと納得してしまいました。（D小学校教諭）

○中学生ともなると、発表もしないのかと思って参観したところ、どの子も自分の意見を発表していたので、驚きました。また、小学校時代の先生もいらしていたので、見届けていただけていると感じ、保護者としてうれしくなりました。（D中学校保護者）

○中学校の先生方も、見学にいらしていて連携のよさを感じました。（D小学校保護者）

「学校公開日の取組」について

D小・中学校連携推進委員会

２学期の学校公開日において、両校で道徳の授業参観を行い、共通理解を図るようにしていきます。具体的には、以下のような取組を行います。

１　D小学校公開日

平成○年○月○日（○）　※道徳公開学級

１校時	８：45～９：30	１-1，3-1，4-1，5-1，6-１
２校時	９：40～10：25	１-2，2-2，4-2，5-2，6-２
３校時	10：45～11：30	１-3，2-3，3-3，5-3，6-３
４校時	11：40～12：25	１-4，2-4，3-4，4-4，6-４
給　食	12：25～13：15	
清　掃	13：15～13：35	
昼休み	13：35～13：55	
５校時	13：55～14：40	１-5，2-1，3-2，4-3，5-4，

D小学校職員は、指定された校時に道徳の授業を実施。

D中学校職員は、道徳の時間を参観する。

２　D中学校オープンスクール

平成○年○月○日（○）～○月○日（○）

１校時～６校時全時間帯（給食、清掃、昼休み含む）

道徳時間割

月曜日（１年）彩の国の道徳「仮入部」

水曜日（２年）彩の国の道徳「父の一言」

金曜日（３年）彩の国の道徳「心の涼風」

１校時（１組）から６校時（６組）までクラス順

D中学校職員は、指定された校時に道徳の授業を実施。教材セットは授業終了次第、次クラスに運ぶ。

D小学校職員は、道徳の時間を参観する。

※45分（50分）の中で一つの学級を参観しても、複数の学級を参観しても構いません。道徳の時間の進め方、子どもたちの様子を参観してください。

※授業参観後、所定の感想録を連携委員会に提出してください。

※次回の合同研修会に、感想録をもとに「道徳の授業について」協議を行います。

新しい活動を無理に生み出すのではなく、従来から行っている学校公開日等を利用して相互に参観できるようにする。こうした取組は９年間を見通した子どもの育ちを考える契機となる。中学校に入学してくる小学校の児童や小学校を卒業し中学生となった生徒の姿を45分（50分）じっくりと見る機会が児童生徒を理解する上で効果的である。中学校側からは、絵やペープサートなどを活用しながら児童に考えさせていく展開や、児童の活発な発言を引き出す展開など多様な授業展開が参考になる。また、小学校の低学年からの積み重ねを中学校に引き継いでいくという点に改めて気付くことができる。小学校側からは、中学１年生と中学３年生のわずか３年間での発達の差や成長を実感し、より深く考えることができる生徒の姿に、改めて土台としての小学校での学びの大切さに気付くことができる。さらに、参観した授業について感想の交流を図ったり、協議を行ったりすることで、道徳の時間の指導の在り方等について共通理解を図ることができる。